

第41回日本口腔インプラント学会学術大会に参加して

メインテーマ

「インプラント医療安全の推進行動」

日時：平成23年9月16日（金）～18日（日）

場所：名古屋国際会議場



岡田 淳（神奈川県）

平成23年9月16日（金）から18日（日）の3日間に亘り、第41回日本口腔インプラント学会学術大会（第32回日本口腔インプラント学会中部支部総会・学術大会併催）が開催されました。

今年は、ケースプレゼンテーション試験が15日（木）に行われ、それらを含めると4日間に及ぶ長丁場でした。今回のメインテーマは「インプラント医療安全の推進運動」を掲げ、いかに国民に対してインプラント治療の安全、安心を具現化していくかを考える学会となりました。昨今マスコミ等で、インプラント治療に係わる問題が報じられていることもあり、当日はNHKからの取材依頼もあったようで、やはり国民のインプラントに対する関心の高さを改めて感じるとともに、学会をはじめ我々インプラント治療に携わるものが、国民に対し信頼性のある治

療を提供することが重要であると感じる学会でした。

シンポジウムではメインテーマに即した形で「インプラント治療の安全推進行動：安全・安心のためのチェックリスト」と題した講演が行われました。国民がインプラント治療を受ける際、ならびに我々がインプラント治療を行う際に「安全」と「安心」を確実に達成するためのチェックリストの製作を目的とした講演でした。非常に内容の濃いもので、会場もほぼ満席状態でした。

また、最終日には今回初の試みとなる顎顔面インプラント学会との共催シンポジウムが開催されました。「抗血栓療法患者のインプラント手術」と題し、本学会から井上孝教授、顎顔面インプラント学会から矢郷香先生がご講演されました。高齢社会を迎え、



全身疾患を持つ患者も増える中で、このようなテーマは「医療安全の推進行動」として非常に重要だと感じました。昨年「抗血栓療法患者の抜菌に対するガイドライン」が発表されましたが、「抗血栓療法患者に対するインプラント手術」に対するエビデンスはまだまだ少なく、議論はこれからであると同時に、早急なガイドラインの作成が望まれるものと感じました。

当会からは座長：井汲憲治先生。講師：田中譲治先生によるイブニングセッションが開催されました。さらに一般口演では、水口稔之先生、若井広明先生、山田嘉宏先生、森進太郎先生、岩本麻也先生、古市嘉秀先生、鈴木祐輔先生、小嶋栄一先生、浅賀知記先生、鈴木郁夫先生、関康宏先生、脇田智文先生、松井力先生がご講演されました。多くの先生方がご発表され、非常に中身の濃いものでありました。

今回、私は途中からの参加となりましたので、拝聴できなかったご講演がありましたことをお詫び申し上げます。来年は大阪で行われる予定です。ぜひ多くの先生方の参加をお願いいたします。

